

「環境の山武」意見交換会

「環境」が山武のキーワード。これからは、点から面への展開を。

「省 (Savemation)」の企業理念を、具体的に形にする現場の社員は、「環境の山武」をどのように捉え、感じ、実践しているのだろうか。そしてまた、これからの「環境の山武」はどのようにしていくのか。日常では異なるカンパニー・部署で活躍している社員8名が一堂に会し、「環境の山武」への思い、夢を語ってもらった。また、山武グループの環境管理活動の責任者である里村環境推進室長も同席し、その思い、夢を共有した。



計測、分析、制御など、多方面で「省」を実現

「環境の山武」をどのように捉え、実践していますか？

福田●私はビルシステム事業にずっと関わってきましたが、これまでは山武の製品を使って室内環境を制御することがメインでした。そういう時代には、制御した結果得られる「省エネ」はあくまで「おまけ」でした。しかし、時代とともに少しずつシステムの「効率」つまり「省」の部分が認識されるようになって、お客さまからその「省」そのものを要求されるようになりました。つまり、「おまけ」だったものを本来の「価値」として捉えるように変わったわけですね。これがまさにESCO (P.22参照)の原点なんです。山武の製品は以前から「省」を意識して作られているわけですから、このようなESCO的な視点はもともとあったのかもしれませんが。今から「グリーン電力証書 (P.22参照)」も扱い始めました。これまで山武は「省エネ」を提供していたのですが、さらに「環境価値」そのものも提供していきます。山武が扱うことで、数多くのお客さまに展開することができますし、現場でこの環境価値の活用方法をお客さまと一緒に考えることもあります。これまでのビジネスのつながりが「環境」という側面でどんどん発展しています。

今津●以前、官庁建物の設計部署の方より「建物に設置されている山武の中央監視装置の機能がすべて有用かどうか」を報告するように依頼され、BOSS管理にて中央監視装置の最適運転を行った結果をまとめる機会がありました。最終的に分かったことは、設備はそのままでも、最適運転になるように制御の調整を行うだけでかなりの省エネ・省コストにつながる、ということでした。無駄を省き、最適に運転する「自動制御」が重要であると認識しました。現在は、サービスの一環として他の事例についても分析を行っていますが、「設備の最適運用」を環境的な側面

から切り込む方向性は間違っていないと思います。

安河内●以前は、「省」という概念は「自動化で人を省く」ということが主体でした。そんな時期に最初に手がけたことは、「モニタリングすること」です。ある工場では、電力、エア量で合計600点くらいのポイントをモニタリングし、その結果を分析し、省エネにつなげました。まずは現状を知る、というところが省エネの第一歩なんです。その一歩を踏み出すことができるのは、山武の計測の技術があつてこそでしょう。今は、省エネがコスト削減だけでなく環境保全にもつながるという意識をお客さまも山武もはっきりと持つようになってきたのではないのでしょうか。

高井●計測、制御、分析は山武の得意なところですね。最近、山武では、製品だけでなく、「コンサルティング」関連の商品を扱い始めています。私の仕事も、まさにコンサルティング事業です。簡単に言えば、プラントで起こる様々なエラーを集めてきて、連鎖して発生するエラーを分析し原因を突き詰めるというもの。エラーを分析し解決することで、結果的に省エネにつながるケースが多い。余談になりますが、実際の分析結果の説明をする際に、自社の工場での事例を見せて比較すると説得力がありますね。社内でもしっかりやっているということが、お客さまには大きなインパクトを与えます。

元木●「社内での取り組み」を外部向けに活用していくということは、スタッフとしてはとても嬉しく、モチベーションもあがりますね。どんなに社内環境に一生懸命取り組んでも、売上に貢献した明確な数値が結果として見えにくいのが現状です。会社を根底で支えるスタッフこそが「環境の山武」を意識して行動しなければいけないのでは。私達だけで考えていると行き詰まってしまうのですが、現場に近い営業と一緒に、「何ができるか?」「どのような取り組みをお客さまに紹介できるか?」と考えることで、新たなアイデアが生まれますね。

近田●私の事業は山武の分析技術を「都市防災」に活かしています。下水道流量を予測することで、下水道処理施設の維持管理に役立ててもらっています。適切に維持管理することは安全な水を守ることにつながり、結果的には、自然環境を守ることにもつながると考えています。それは廻りまわって「人」を守ることにもつながります。

金井●「環境」という側面は、取り組みが次々とリンクしますね。例えば、もともと「省資源」という観点から小型化された商品は、使用材料の削減からコスト削減につながり、さらには生産ラインもコンパクトになり、生産時の使用電力削減にもつながりました。さらには、小型化されたことで、これまで不可能であったアプリケーションが実現可能になることもしばしばあります。例えば、私が開発している「露点計」(空気中の水分量を測るセンサ)は従来製品に比べると体積比100分の1くらいに小型化されましたが、コンパクトになったことで、燃料電池への応用や、ラジオゾンデ(上空の気象状況を測定する機器)への応用など、間接的に環境貢献の方向へこの技術を活用できるのではないかと、試行錯誤しています。

高橋●つながるといえば、PR誌の中に山武の様々な取り組みを紹介する「Savemation Spirit」というコーナーがありますが、そこで取り上げている話題は、結局は「省エネルギー」とか「省資源化」など、「環境」に結びついている例がとて多いいんです。山武のやろうとしていることは本当に環境にリンクしているな、と感じます。

「環境」の意識がみんなに浸透し、その思いを共有することが大切

様々な環境ソリューションがありますが、その連携はどうでしょうか？

高井●山武の今ある技術を結集して何ができるんだろう、と考えるとものすごい可能性を感じます。環境という軸で考えて、山武の技術ならこのようなことが出来るというイメージをきちんと描くことは大切なことではないでしょうか。さらには、そのイメージを社員全員で考えて、共有することができればもっといい。

高橋●確かに、何かみんなで考えたものが具体的に実現した、というような実感が持てるとモチベーションもあがりますね。実際にお客さまと接している人は、例えば、省エネを実現した時などに、直接お客さまから「ありがとう」と言ってもらえるけれど、生産や開発部門の方々やスタッフはそういう機会は少ない。そういう部分を、コミュニケーションを通じ

て補っていくことは、広報としての大きなテーマでもあります。

金井●まずは気持ちを共有することが重要ですね。開発では、常に気持ちをプラスに持ち、信じつづけることが必要ですが、そのようにモチベーションをあげるには、自分の考えをしっかりと情報発信し、みんなに理解してもらい、その思いをみんなで共有することが大切。だから、「環境のために…」という気持ちも全員で共有して、はじめて力が発揮されると思います。

安河内●まずは、全員で「環境」を強く意識して各々の立場で取り組むこと、それが「環境の山武」の原動力になると思いますね。

福田●つまり、環境に関わっていることを社員全員が感じる仕掛けが必要ということですね。環境に関わる仕事をやるというのは気持ちいい。環境に関わるとみんな「いい人」になれるんです。そういう気持ちを共有したいですね。

個々の環境ソリューションを面=エリアの環境最適化へつなげるという“夢”

これからの山武は、どのような道を歩むと思いますか？

近田●制御=省エネという話がたくさん出ていますが、私を感じるの、これまでは、山武が制御対象としていたのは「ポイント」だということです。ビルとか、プラントとかそのような単体を制御していたと思います。これからは、山武の総合力を活かした“エリア”での制御だと思っています。ビル空調の省エネ、燃料電池、コジェネなどそれぞれをエリアに配置し、そのエリア全体が快適になるように制御するんです。下水道処理制御は、処理区域も含めて広く捉えるとまさにエリア制御ですね。河川はそのエリアの間を流れています。エリア間で情報交換というか、防災的な観点も含めて面的な制御を行う必要性が高まっていて、国の方針としてその取り組みが進みつつあります。

福田●つまり、もっと広く、地域レベルにまで考えを広げると、地域にあるいくつかのエリアをまとめて相互に最適制御をし、さらに地域間の最適制御を考える…。そうすれば、全体として最適な方向へつながっていく。最後は日本全土、いや地球規模でも最適にできる。山武の総合力はそういったことを実現できる可能性があると思いますよ。

里村●エリア間の連携による地球環境保護でもいうのでしょうか。山武はこれまでの点の制御だけでなく、面=エリアでの制御を実現できるという“夢”が見えてきました。 本日は、ありがとうございました。



ビルシステムカンパニー
ソリューション営業3部
福田 一成
ESCO事業を中心にエネルギー問題に関するソリューション事業で活躍。
「お客さまにとっての環境価値を重視した事業展開。『WHAT'S GOOD FOR THE ENVIRONMENT IS GOOD FOR BUSINESS』をモットーに推進しています」



アドバンスオートメーションカンパニー
中部支社四日市事業所
安河内 昭彦
工場市場の省エネルギーをテーマに省エネ機器・省エネ・ソリューションを提供。
「学生の時にエネルギー工学を専攻。山武で20年「計測と制御」に携わり、今まさにそれを生かした「省」の仕事がやれるという気がしています」



アドバンスオートメーションカンパニー
テクニカルアシスタンスセンター
元木 比呂志
カンパニーのサービス支援がメイン。ISO推進委員として事業所の活動をサポート。
「環境の山武という一体感が大事。直接お客さまに接しない人たちにも、山武の一員として社会に貢献している実感を提供したい」



生産技術開発センター
技術開発グループ
金井 良之
1/10プロジェクト(製品の小型化検討プロジェクト)から生まれた新型センサーの開発に従事。
「製品をコンパクトにするので省資源・環境負荷低減に挑戦。開発した製品を山武の製品・サービスに色々な形で応用してもらいたい」



ビルシステムカンパニー
大阪BOSSセンター
今津 茂樹
通信回線を使ったビル管理がメイン。ショールームを兼ねたセンターで山武のプレゼンにも注力。
「データを使ったより効率のよい建物管理=省エネルギー・省コストで山武の競争力をアピールしています」



アドバンスオートメーションカンパニー
ソリューションマーケティング部
高井 努
DCS(分散型制御システム)構築を柱に山武のさまざまなソリューションを組み合わせたビジネスモデルを展開。
「私のコンサルティングは司会進行中心。いかにお客さまの持っているものを引き出し、山武のノウハウとつなげるかに苦心しています」



環境事業推進本部事業推進室
都市環境防災グループ
近田 智洋
都市環境・防災問題の一つとして下水処理場の効率的な処理に取り組む。
「都市全体の環境問題、防災問題の解決。そのためにデータをいかに有効活用し、求められている情報を提供していくかが重要だと考えています」



経営企画部広報室
高橋 実加子
山武の企業理念「Savemation」を内外にアピールするための様々な広報活動に活躍。
「お客さまに山武の本当の姿を伝えること、省エネを確実に実現する会社なんだと示すことが「環境の山武」というブランドにつながると思います」